

エゾマツハバチ

春にアカエゾマツの新葉を食べるイモムシ（幼虫）。最大長約13mm。体は黄緑色、大きくなると横に黒い斑紋が現れる。頭部は黄褐色。

アカエゾマツ林でまれに多発する。食害により枝先が枯れることがある。



1. 幼虫，終齡。1985/7. 浦河町，アカエゾマツ。



2. 亜終齡幼虫。美唄市。飼育個体。



3. 繭。1985/7. 浦河町。



4. アカエゾマツ被害木。1987/9. 野幌。

【学名】 *Pristiphora ezomatsuvora*

【分類】 ハチ目 (Hymenoptera) , ハバチ亜目 (Symphyta) , ハバチ科 (Tenthredinidae)

【分布】 北海道。

【特徴】

トウヒ属の新芽には他に数種類のハバチの幼虫が寄生するが、体の色で容易に識別できる。なお、エゾマツにはとてもよく似たクロエゾマツハバチが寄生する。

【生態】

宿主：アカエゾマツ，ヨーロッパトウヒ（少ない）．エゾマツに寄生した例は知られていない．

年1回発生．成虫はアカエゾマツが開芽する頃に出現する．道央では5月下旬～6月上旬である．雌成虫は芽鱗が取れたばかりの新芽の葉に1個ずつ産卵する．ただし，特定の芽に産卵が集中する傾向がある．幼虫は6月に新葉を食べて成長する．餌不足になると青枝をかじる．6月下旬頃に地上におり，落葉中に赤茶色の繭を作って，その中で越冬する．

发育ステージ	～3月	4	5	6	7	8	9	10	11～
成虫・卵			..○ ○..						
幼虫（摂食・成長）			.. ■■■ ..						
幼虫（繭内，休眠）	+++	+++	+..	..+	+++	+++	+++	+++	+++
蛹（繭内）			..◇◇	..					

【被害と防除】

アカエゾマツ若齢林でまれに多発する．食害によりせいぜい枝先が枯れる程度なので，防除は普通必要とされない．

庭木での多発は知られていない．

【文献】

1985．農林水産省林業試験場北海道支場保護部．北海道樹木病虫害獣図鑑．223 pp．北方林業会，札幌．（生態，被害，カラー写真）．

*1993．原秀穂．トウヒ属を加害するハバチ科 *Pristiphora* 属3種の区別点と生態について．第41回日本林学会北海道支部論文集：85-87．

*の文献は北海道立林業試験場ホームページの「北海道立林業試験場・研究成果文献データベース」で見ることができます．

北海道立林業試験場・緑化樹センター

アカエゾマツハバチ habachi/akaezo/
kaisetu.htm

「文章」原秀穂，北海道立林業試験場，2001/8/21．

yochu1.JPG, mayu1.JPG

「写真1，3」鈴木重孝，北海道立林業試験場，1985．

yochu2.JPG, higai.JPG

「写真2，4」原秀穂，北海道立林業試験場，1987．